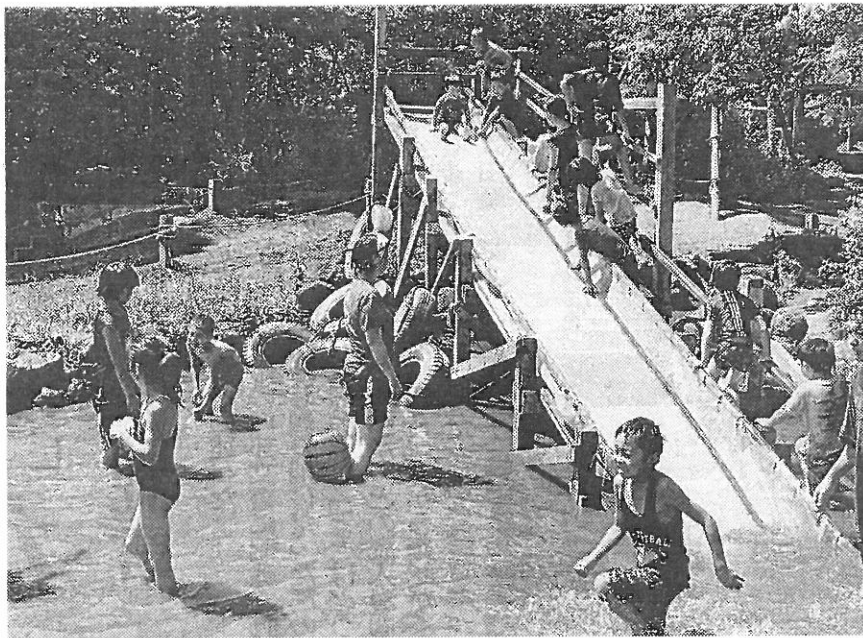


思い切り泥んこ遊び

市民の会 夢パークに招待



福島の子に「夏の思い出」

福島第一原発の周辺市町村に住む子どもたちを無料で川崎に招く「川崎サマースクール」が開かれている。10日は、川崎市高津区下作延の市子ども夢パークでの外遊びが企画され、子どもたちは炎天下での水遊びや流しそうめんを楽しんだ。「福島の子もたち」とともに「川崎市民の会」の主催。

(鴻谷 創)

同パークの遊び場には子どもたちの歓声や笑い声が
~~~~~  
泥んこになって水遊びなどを楽しむ子どもたち。高津区の市子ども夢パーク

響いた。全身泥だらけになって走り回り、ウオータースライダーや滑車ロープなどを楽しんだ。多くの子どもたちは、原発事故以降、テレビゲームなど屋内で遊ぶことが多かったようで、久しぶりの泥遊びを満喫していた。

福島県伊達市に住む市立小3年の片平大遥さん(9)は「泥んこになって遊ぶのは気持ちいい。皆で遊ぶのも楽しい」と笑顔。父の信貴さん(41)は「久しぶりに子どもが生き生きとした表情になっている。いい夏の思い出ができたのでは」と目を細めていた。

同スクールは7月末から2回に分けて実施。現在は、伊達市の親子15組34人が、市青少年の家(宮前区)に8日から滞在している。11日にこどもの国(横浜市)への遠足やキャンプファイ

アを楽しみ、12日に福島県に戻る。

滞在費などにかかる約350万円の予算は、すべて募金で賄った。同会は「一人一人の善意が集まったおかげで開催できた。今後何らかの形で福島の子どもたちを支援していきたい」と話している。